

第 83 回麻布獣医学会 一般演題 16

フィリピン国における狂犬病予防注射ボランティア 継続の困難と国際協力の必要性について

塚田 勝彦¹, 吉田耕一郎¹, 高木 敬彦², 原 元宣², 光崎 研一²

¹塚田動物病院 (名古屋市), ²麻布大学獣医学部獣医学科

[はじめに]

我々は 1997 年から 2008 年 7 月まで、フィリピン国での狂犬病実態調査および狂犬病予防注射のボランティアを、年数回、継続的に実施している。フィリピン国では、国家的対策として狂犬病撲滅に力を入れているが、地形的に約 7,000 島に近い島から形成され、撲滅対策は物理的に困難な状況にある。しかし、2007 年にはおよそ 281 名が狂犬病で死亡するという実情があり、狂犬病撲滅対策は緊急を要する状況にある。日本は、1957 年以降、狂犬病の国内発生はないが、2006 年の狂犬病による死亡者のように汚染地域で感染した例はある。疫学的には、狂犬病感染源とする動物の存在は知られているが、その実態は十分に把握されている訳ではない。

また、フィリピン国の社会的要因が影響し、国民の認識に隔たりがみられる側面もあり、ボランティアに困難さと複雑さが混在する。しかし、狂犬病死亡者の減少には、狂犬病予防注射の徹底が効果的であることは言うまでもない。

そこで、フィリピン国で実施されている狂犬病予防注射のボランティアの実施概要とその将来的方向性について報告する。

[方 法]

フィリピン各地での狂犬病予防注射は BAI (Bureau of Animal Industry) が中心となって全国 13 リージョンで行なっている。2003 年ボラカイ島、

2005 年ミンドロ島イロコス、2006 年ネグロス島、ルソン島ラワッグ、2007 年シキホール島、カミギン島、2008 年ギマラス島、マニラ市内など各地の狂犬病予防注射キャンペーンにフィリピン国よりの招聘により参加した。また、重度の狂犬病汚染国であるフィリピン国のキャンペーンに向け、我々を含む参加者全員が狂犬病予防接種を受け、狂犬病予防注射を約 500 匹／会場に実施した。予防注射実施については、各地リージョンの県知事や知事と地方の獣医師会が綿密な計画を立案し、日程等も決定されている。また、台風などの季節的な要因も計画に影響を与える。

[結 果]

立案計画の変更は無いが、季節的な問題では計画の変更、輸送手段の危険性、さらにテロなどのリスク、食中毒等の水系伝染病などの罹患、他の熱帯、亜熱帯の感染症罹患の危険性が含まれる。社会的要因の差による認識の相違が計画に多大な影響を与える。国際協力には、前述のリスクはやむを得ず、国民性の違いを認識し、ボランティアの意義を十分に理解して参加すること。このボランティアは死亡率の高い狂犬病の撲滅であり、戦後、日本国内の狂犬病発生の無い事をかんがみ、地道な予防注射の実施が必要である。現在狂犬病発生起序の要因は十分に解明されてなく、日本国内発生も今後無いと否定できるものではない。また、狂犬病汚染地域の減少の努力には、若い獣医師の参画が必要である。